夏の移動青年学級終る
尾瀬に五十九名の青年集う

青年の一般教養向上と、職業知識技能を学んでいただくために開設されている青年学級は、着実にその成果をあげていますが、夏の移動学級は国の天然記念物として保護を受けている尾瀬に開かれた。

これは規律あるキャンプの共同生活を通じ、責任感と忍耐力を養うほか、青年相互の友交を深めるために毎年行なわれている事業で、今年は五十九名の青年男女が参加し、七月二十二日から三泊四日の日程で開催された。

二十二日　午後二時半横芝駅前に集合し沼田へむかう。シーズンも最高の好期とあってか、上野駅からの混雑は相当のものであった。

二十三日　午前三時五十分沼田におりる。上野を出て約四時間、ネボケまなこで駅前を見れば、尾瀬へむかうキャンパーを運ぶバスがズラリ並んで待っていた。いねむりしつつ乗り移ったバスも、河原や谷あいを進んでいくうちには

いつしか声もなくなり、手すりを強くにぎりしめ、足を突っ張っていた。朝もやのなびく畑に遊ぶ野猿の姿がふと気を休めてくれるのだが……三時間あまりで鳩待峠に着いた。ここからは登山リーダーを先頭に女子を、男子が後から続くパーティを編成、尾瀬が原を進む、湿原を横切る道は材木を半割りにした木道が敷かれ、歩きやすいペーブメントができていて、その周囲は夏の尾瀬を色どる日光キスゲや湿原の植物が広くうめていた。

空は高く澄み池塘に浮ぶスイレンに似たヒツジグサ、ジュンサイが一層美しく私たちをむかえてくれた。この山の天気も山小屋に近づくころには四方の山より入道雲がせまり、足早に山小屋に入ると

……尾瀬ガ原の木道を行く学級生……

同時にどしゃぶりの雨に見舞れた。雨にぬれる事もなく、しかも予定より早く宿舎に入った事を皆で喜び合う、夜は開講式等を行ない早めにランプの下に枕を並べる。

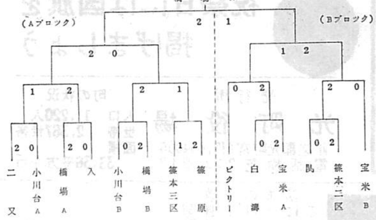
二十四日　朝は寒いのに目が覚めた。四時であった。朝食前に滝を見て来るというタフガイはもう行動をはじめていた。

燧岳の登山道は昨日の雨で水がのし、足を取られる者が多い。隊は昨日同様女子を前に男子が後から続く。この山から北には日本ではこれ以上の高い山がないだけに、森林限界を越えるあたりから急に疲れを訴える者がふえた。まっすぐの登山道は強い陽が照りつけ、赤青黄や白のシャツが汗にぬれる。しかし頂上からは雪を抱いた上越の山々、会津の山波、眼下に尾瀬沼を眺むとき、その雄大なスケールにすっかり魅了され、疲れもふっとんだ。またこの時登山リーダーの越川輝男、布施光則君達の活やくはすばらしかった。頂上を前にして疲れたMさん、Nさんを冷静な判断と経験のもとに無事頂上へ引きあげ、しかも他の青年の動揺をおさえ、下山口で待っていた青年の前へ元気な姿を現わした時には一斉に拍手と感激の声があがる感動的シーンであった。夜は静かに暮れた尾瀬沼のほとりに激励にかけつけた椎名町長を交えてキャンドルサービスをした。若者の持っている意気が歌に、ゲームにぶつけられ楽しい笑いがうずまいていたが、やがて一つまた一つ、ローソクの灯が消えると尾瀬は再び深いねむりに入った。

二十五日　また静かな朝を迎えた。早めに身のまわりを整え山をおりる。谷川にそって三時間も下るとバイクに合い民家も近い事を知る。大清水からバスに乗り昨日までの山々を見れば、いつか厚い雨雲にすっかりおおわれていた。聞けば先日の雨で私達の歩いて来た道はバスが不通だと言い、日おそく山に入れば今日は雨に見舞れていた事だろう。すべて順調に進んだ事を満足に思う。

帰りの車中ではさすがの青年も疲れたのかぐったりとしていたが、やがて千葉へ入ると急に元気づく。二十時四十分全員無事に横芝駅前で解散したが、このキャンプを通し青年同志良く理解しあい、強い団結と協力の中に初期の目的を達成した事は、人間関係高揚と相まって大変成果のある行事であった。

白球を追って
成果あがった青年館バレーボール大会



二回目をむかえた青年館対抗親善バレーボール大会が、七月三十日光中学校バレーコートで開かれ、十四チームが熱戦をくりひろげました。

今年は青年館のない部落からも参加したいと強い希望があったので、こころみとして青年館のある部落、ない部落を問わず、参加を受けつけたのですが、各青年館長さんや青少年相談員さん方も思いがけない数、込みにびっくりしたようです。

試合は青年館ブロックと未設置ブロックに別れてくりひろげられましたが、両ブロックの勝者が決勝を行ない、橋場Aチームが見事栄冠をかちえました。

結果は別図のとおりですが橋場Aチームは海匝地区の予選に進出することとなり、優勝した場合は県大会に出場することになります。

青少年相談員連絡協議会長林勝さん談、今年は青年館をおかない部落からも多くのチームが参加して有意義でした。とくに婦人会の方々も選手として加わっていたことは青年館対抗のバレーボール大会の主旨はさておいて大変結構なことと思います。次回からはあらゆる階層から選手が加わってより多くのチームの参加ができるよう計画したいと思います。

表彰を受ける橋場越川主将

第六回光町ポンプ操法
大会炎天下に開かる

去る七月二十八日午前九時第六回光町ポンプ操法大会が東陽小学校グランドではなばなしく開催された。

郷土防災を担う精鋭選手百数十名が日頃の訓練で鍛えた技能をいかんなく発揮し、消防人としての責任を全うしようとして意気旺盛に、日焼した精悍な頼もしい顔ばかり、この人達こそ郷土防災のため己を省みずその任に当ることができたのだ。

まず開会と同時に町長と団長より、それぞれ消防技術の向上と組織の強化を図った日頃の訓練を十二分に発揮し正々堂々と技を競って欲しいと、激励の言葉があり、次いで九時三十分可搬動力ポンプから操法は開始され、各分団の志気は大いにあがり、日頃の訓練にものを云はせ、四時間余に亘る熱戦の幕を閉じたのであります。

厳正な審査の結果は、次の分団がそれぞれ晴の入賞を獲得した。

総合優勝は第七分団入賞

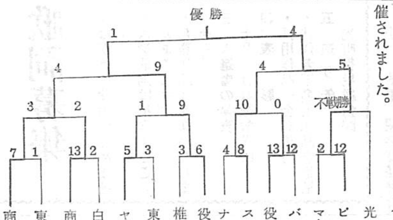
◎自動車ポンプの部
一位　本部二号車
二位　第七分団第三部
三位　本部一号車

◎手引動力ポンプの部
一位　第一分団第二部
二位　第一分団第三部
三位　第二分団第二部

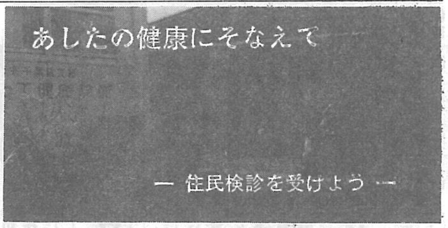
◎可搬動力ポンプの部
一位　第三分団第二部
二位　第七分団第一部
三位　第四分団第二部

ビクトリー
三度目の栄冠
軟式野球大会終る

光町軟式野球連盟主催による第五回大会は、青年研修所東陽小、光中のグランドで七月一日から四日間の日程で開催されました。



今回は、十五チーム約二百三十人の青少年が参加して、好ゲームを展開しつつ優勝を競いました。その結果ビクトリーチームは、役場Aチームと熱戦の末二対二の日没引分け再試合となり、八月五日再試合の結果四対一で貫録勝ちし三回目の優勝をしました。



住民検診の日程がきまりました。この機会を利用して、自信のある健康なからだと農繁期をすごしましょう。病気は早い発見と早い治療で精神的にも経済的にも皆さんの負担が軽くなります。

午前中の部　(いずれも9時から11時まで)

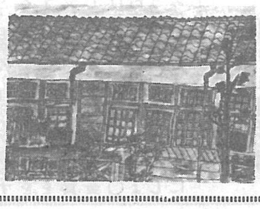
月日	部落	場所	月日	部落	場所
9.18	篠本1区	集会所	9.28	谷中	集会所
19	3区	青年館	29	篠原	青年会
20	宝米、市ノ原	明光院	10.2	入	集会所
21	母子	集会所	3	辻関の岡	白浜公民館
22	台	集会所	4	長塚	宝満寺
25	虫生、富下 傍示戸	富下倉庫前	5	尾垂56の岡	観音院
26	橋場	青年館	6	高野谷山柄	不動院
27	古屋	公民館			

午後の部　(いずれも1時から3時まで)

月日	部落	場所	月日	部落	場所
9.18	篠本2区	公民館	9.28	西高野、桑郷	西高野集会所
19	新井	満福寺	29	原方	隆原寺
20	二又	青年館	10.2	作間内	正等院
21	小田部	農業倉庫前	3	木戸	光泉寺
22	小川台	青年館	4	五ノ神	集会所
25	芝崎	西蓮寺	5	尾垂6区浜	ひかり荘
26	橋場	青年館	6	辻、関の浜	関区長宅
27	宮内	東陽公民館			

良い子の作品

東陽小六年　林美智子



東陽小六年　鵜沢茂

二学期のスタート
――光町小中学校生活指導部――

いよいよ二学期がスタートしました。目標もなく、がむしゃらに飛びだしたのでは、暴走に終わってしまいます。

そこで二学期の指導のポイントとして、次のことをおさえたいと考えました。

一ケ月余りの長い夏休みをへた子ども達には精神的、身体的の両方面に色々な変化をきたしておると認めなくてはなりません。即ち、

㈠規則正しい生活をいとうようになってはいないか

㈡身体がなまくらになって長い時間の仕事にたえられなくなってはいないか

㈢夏やせや疾病にかかって身体が衰弱してはいないか

㈣いろいろな突発事件や家庭の出来事で強いショックを受けて精神の不安定を来たしていることはないか

㈤不良的な行為は見られないか

等が考えられます。またいい方面としては、

㈠夏休み中の継続的な研究や作業の結果、自己の趣味や興味の方向が明らかになってきた。

㈡計画的な仕事が出来るようになってきた

㈢物事を探究的に見たり考えたりするようになる

㈣自主自律の習慣がついてくる

等が考えられます。

このうち悪い傾向に対しては、父兄がつぶさに子どもを観察して、その原因を探り、学校と協力してその原因を除去したり好ましい環境をあたえるようにすることが必要だと思います。また良い傾向に対しては今後ますますこれを助長するようにしたいと思います。

編集後記

九月一日は二百十日、昔から台風の厄日として、警戒されていますが、最近に大きな災害をもたらした。台風は二百二十日以降に多く来襲しています。今一度災害のおそろしさを換起して災害に対する自覚を持ちたいものです。

楽しかった夏休みも終り、いよいよ二学期を迎えますが開放的であった、夏休み中の少年達の生活について保護者はよく観察してみましょう。もし悪癖が身についていたら早く芽をつみとることが必要です。